

# 芦安中学校前期自己評価書

令和2年8月28日（金）

南アルプス市立芦安中学校

## 1 前期自己評価の経過

(1) 前期教職員対象アンケート及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施（7月）

(2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（8月）

小中一貫校の取組の観点から、評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施。

## 2 学校評価の分析と改善方策

### (1) 学校運営・学校経営

〔達成状況〕全体としては、学校教育目標を意識した肯定的な回答が多く良好な状態にあると言えるが、まださらなる改善の余地が残っている。また、PDCAサイクルによる教育活動の改善が進んでいるが、現状を分析しながら全体的にバランスよくおこなっていく必要がある。校内研究会の取組は、新型コロナウイルス感染防止対策で3密を避けるため、小中一貫による全体の校内研究会を実施することができず、管理職や研究主任を中心とした連携による取組を行っており、研究は進んでいるものの全体としての話し合いが実施しにくい状況になっている。校務分掌に関しては、小規模校のため1人で複数の分掌を受け持ったり、慣れない分掌を任されることがあるため、さらなる連携体制を整える必要がある。

〔改善策〕全体的にAとBの肯定的な回答がほとんどであるが、AとBの割合が半々であり、BからAへ移行できるようさらに意識を高め目標を持って継続的に取組を行っていきたい。また、さらに充実した教育活動を展開していくためにはPDCAサイクルによる改善が不可欠で、現状を分析しながら会議や打合わせを通してさらなる改善を図っていきたい。コロナ禍においては活動にどうしても制限が出てしまうが、可能な範囲の中で小中一貫による連携の面から系統的・計画的な教育活動を行うために、小中の事前打ち合わせや代表者会議を大切にしていきたい。その対策の一環として1学期末から小中連携による授業研究を行うために、3密を避け、中学校の教員が小学校の授業参観を行い、2学期以降に中学校の教員が小学校の児童の実態を踏まえた授業を行うという取組を行っている。また、学校運営にあたって各分掌の職員同士が連携を取り、共通理解を図りながら学校全体で取り組む意識を高める。小規模校の特性をふまえ、教育活動が常に全職員の共通理解のもと連携しながら進められるようにする。

### (2) 学習指導

〔達成状況〕全体としては概ね良好であると言えるが、授業でやまなしスタンダードによる授業改善に取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、話し合い活動や対面による発表活動等が制限されており、3密を避けながらの活動の進め方が難しい。授業の中で、めあて（目標）を示し

て授業を展開し、振り返りを行うことで、基礎・基本の定着が徐々に図られるようになってきている。しかし、授業の中でわからないことがあり、あまり楽しくないという生徒が1割、子どもの授業内容の理解度を心配している保護者が2割強おり、よりわかりやすい授業や個別指導がさらに必要である。また、授業中、発言や発表をしたり、教師や友達の発表に耳を傾けるという項目で意識が高い生徒が多い反面、2割弱の生徒が否定的な回答をしている。家庭学習については、与えられたものについてはできるようになってきているが、自主学習にはまだ課題がある。

〔改善策〕授業の中でわからないことがあり、あまり楽しくないという生徒が一部おり、よりわかりやすい授業を目指す授業改善とさらなる個別指導や放課後の学習サポート等を行い、個に合った指導をさらに充実させていきたい。また、授業中、発言や発表をしたり、教師や友達の発表に耳を傾けるという項目で意識が高い生徒が多い反面、2割弱の生徒が否定的な回答をしており、コロナ禍とはいえ発表活動について、それらの生徒たちへの対応を工夫・改善していく必要がある。保護者の目からは、宿題がきちんとできていると感じられる割合は65%で、35%の保護者は否定的な回答をしており、9割近くの生徒が肯定的な回答をしている生徒のアンケートと意識の違いが見られる。学校でも、家庭学習のあり方についてさらに継続的な指導と授業との関連付けを行い、家庭学習への意識が高まるような指導と家庭との連携をより一層高めていきたい。自主学習についてはまだ課題があり、授業と家庭学習との有機的な結びつきを意識した効果的な指導についてさらに研究を深めていきたい。また、「主体的・対話的で深い学びとは何か」を意識した授業の工夫および指導内容や指導方法の改善を校内研究会を中心に組織的に推進し、家庭での自主学習の習慣化も含め、保護者との連携をさらに深めていきたい。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、積極的に話し合い活動や発表活動を行える状況にないが、できる範囲の中で工夫しながら、「主体的・対話的で深い学び」「考え議論する道徳」について授業づくりをさらに研究していきたい。

### （3）生徒指導

〔達成状況〕生徒の学校生活全般については、8割以上が肯定的な回答をしており、概ね良好な状態ではあるが、一人ひとりの状況を見ても悩みや問題を抱えている生徒もいる。学校生活においては、生徒たちの意識が年々高まり、規律正しい生活が送れるようになってきている。また、当番や係・委員会の仕事・清掃活動への取組は徐々に改善されてきている。学校のきまりの遵守やあいさつも、年々改善され、意識も高くなってきている。しかし、保護者は学校での子どもの友達関係をとても心配しており、「仲の良い友達がいるか」は4分の1の保護者が、「困ったときに相談できる友達がいるか」は約半数の保護者が不安を抱いている。学校では、教師と生徒の信頼関係を気づくとともに、生徒の日々の様子を把握し、微妙な変化も見落とすことのないよう努めると同時に、生徒同士の人間関係づくりを強力にサポートしていきたい。

〔改善策〕生徒の学校生活全般については、概ね肯定的な回答をしているが、一人ひとりの状況を見ても悩みや問題を抱えている生徒がおり、その一人ひとりに寄り添ってよりきめ細かな指導を行っていくと同時に、友達同士の人間関係にも注視し、「困ったときに相談できる友達がいる」と全員が回答できるように生徒に寄り添った指導を行っていきたい。また、「先生は声をかけたり、話をしてくれ

ますか」の項目は改善が進んでいるが、コロナ禍で生徒たちにもストレスが溜まっていることを考慮しながら、引き続き日々の学校生活の中で、生徒一人ひとりとの対話を大切に、コミュニケーションを積極的に行うことで生徒理解に努めていきたい。そして、自分の考えや意見を伝えるとともに、他者の話に耳を傾ける姿勢を生徒が持てるように、教職員が積極的にコミュニケーションを行って信頼関係を深め、生徒の小さな変化に気づくように共感的な生徒理解に努めていきたい。また、当番や係・委員会の仕事、清掃活動への取組は徐々に改善されてきており、全員が同じ意識を持てるように継続して指導を行っていきたい。

#### **(4) 保護者・地域との連携**

〔達成状況〕新型コロナウイルス感染防止対策のため、学校の教育活動が様々な制限を受けていることもあり、「学校は楽しいところだと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をしている生徒が8割強、保護者は7割強いるが、約2割前後の生徒・保護者が否定的な回答をしている。また、コロナ禍で、多くの学校行事が中止もしくは形を変えて行わなければならない状況にある。1学期は、3密にならない少人数で実施できるPTA新旧役員会と三者懇談・家庭訪問、児童生徒の安全を守るための3密にならない校庭で短時間に行った小中合同引き渡し訓練を実施した。基本的な生活習慣を身につけさせるようにしているかという項目では、95%の保護者が肯定的な回答をしており、基礎がきちんとできていると言える。

〔改善策〕今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、保護者や地域の方々を学校に招いたり地域に出向いたりする機会があまりなく、積極的に関わっている実感がわきにくいだが、臨時休業中に三者懇談や家庭訪問、1学期末に三者懇談を3密対策を講じながら行っており、今後も感染防止対策を講じながら、積極的に関われるようにしていきたい。コロナ禍ではあるものの生徒たちの安全を確保し、保護者や地域と連携しながら可能な範囲でできるだけ活動を工夫して行っていきたい。また、今学期は、通学路危険個所の点検と熊が出没した時に芦安地区の生徒たちといっしょに下校し、登下校時の安全確保について確認を行ったが、今後も生徒たちが安全・安心な学校生活を送れるように、定期的に可能な範囲で地域や保護者とともに取り組むようにしていきたい。また、保護者や地域との連携についても、日々変化する新型コロナウイルス感染の状況を見て市教育委員会を中心とした市内の統一見解に従いながら、安全に配慮した可能な範囲で活動の幅を広げていきたい。そして、保護者や地域の願いや学校に対する要望等に耳を傾けているかという項目でも、9割以上の肯定的な回答が得られ、引き続き、家庭訪問・面談・電話連絡・アンケート等で、学校の意見や要望等の吸い上げを積極的に行い、学校運営に生かしていきたい。学校ホームページや学校だより・学年だより等で、定期的に学校の教育活動の情報発信とその都度必要な情報をメールや電話等を使って連絡を行いながら、今後も継続した連携に向けて情報共有を図っていきたい。

#### **(5) 学校の特色ある取り組み**

〔達成状況〕今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策で、3密を避けるために、大人数で集まった地域の方々との連携をとって活動したりすることができず、自然体験活動や様々な学校行事、小学校

との連携活動等実施できない活動が多く、不満足感が残る部分も多いが、小中合同行事に関しては、活動が制限されている中3密を避けながら、1学期末に中学生が小学生に対して小学校児童を低学年・高学年の2つのグループに分けて、それぞれ中学校の3年生と2年生が英語の読み聞かせを企画し、実施できたことはよかった。

〔改善策〕今学期は、新型コロナウイルス感染防止対策と失われた授業の時数の確保が優先課題だったため、自然体験活動や様々な行事、小学校との連携活動等実施できない活動が多く、不満足感が残るが、新しい生活様式の中でできる活動を工夫して実施していきたい。コロナ禍ではあるが、1学期末に中学生が小学生に対して英語の読み聞かせを企画し、実施できたことはとてもよかった。活動に制限はあるもののさらに交流が深まるように工夫・改善していきたい。日常の学校生活の充実を図ることが、生徒のさらなる成長へとつながるので行事運営だけでなく日常的な生徒会活動や委員会活動の活性化も進める中で、教育活動を展開していきたい。部活動については、長い臨時休業後、体力・筋力トレーニングから始まり負担は大きかったと思うが、部活動指導員の協力をえながら、実践的指導と個別指導を継続し、ガイドラインに基づき、換気とソーシャルディスタンスを意識した部活動に取り組んでいきたい。家庭での読書では、家には他の誘惑が多いこともあり、家庭での読書の否定的な回答は、3割を超えている。学校の朝読書の活動の延長として、言語活動の幅を広げるためにも読書活動や読書への啓発活動にもより一層力を入れて取り組んでいきたい。

#### 【重点課題】

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策による児童生徒の健康・安全の保持と失われた授業の時数の確保が優先課題となっており、学校生活が新しい生活様式の中で、児童生徒の健康・安全を確保し学校全体で熟議を重ねながら、教育活動の幅を少しずつ広げていくことがとても大切になっている。校舎の安全管理や衛生指導、保健指導についても、まず感染症対策が加わったことで新しい生活様式が学校生活に取り入れられ、手指の消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンスをクリアした上での活動を前提とし、活動の幅を広げていく。PTA活動に積極的に関わっているかという項目で9割近い保護者が肯定的な回答をしており、新しい生活様式の中で今後も保護者と教育目標を共有し、教育活動を工夫しながら参加・協力していただき、さらなる教育活動の充実を図る。

学校教育目標のもと、授業や様々な活動を通して、主体的に学びに向かい、表現活動や他者との対話によってより深い学びにつなげ、生徒の自治的な意識の高揚を図り、生徒の自己有用感や自己成就感を高める。また、豊かな感性を磨き、自他の理解を深め、様々な個性を受け入れながら、思いやりの心の育成に努める。そして、家庭学習にも有機的に結び付くように授業の工夫・改善を図る。